

# 欺瞞的民主化を策動する 法学部総会を糾弾する!

法学部ストライキ実行委員会 1/5

一月以上にわたる、漸進体制の下、なし崩しの校止再開、欺瞞的正確化が着々と押し進められている中において、本日、民青諸君は法学部総会なるものを用かんとしている。この法学部総会の意味するものは何久。

あのいまわしい十月四日、我々のビケの前で産婦がいかにも悲願を保持して語った言葉を決して忘れないだろう。その後我々は敢てにわたり学長、研談会に対し、団交を追って来た。そしてさきの総決起集会には七名の余りの学友が決起し団交貫徹の固い意思を確し、当局に公開質問状をつきつけたのである。しかしながら彼らは我々の意思を一切黙殺した上、まことになし崩しの漸進体制を延期、更にさきには三項目の禁止事項を強制的に押しつけ言論弾圧、思想弾圧をやらせようとしているのである。そして臨時執行部への極度の権力集中体制下、もはや事後承認機関と化した教授会は最終はその残骸を我々の眼前にさらし現在までの一切の責任を自らの問屋として語ることをなく、生共斗に転嫁し、自らの正当化に居直りそして校止正常化に躍り上がっている。我々は学者としてあるいは教師として警察権力を背景にしてしか我々に堪えようとしなかつた、そして今もつてそうである彼つを決して許すことができない。

民青諸君、君達は、学校当局、法学部教授会とのよりな石裏の対面の中で、(特)導入以後、にわかに右気立ち当局の校止再開正常化路線に乗っかり一般学生の危機感をあおりたてつつ、二八・二五の集会を当局と一体化して押し進めたのである。一切の責任を生共斗にかすりつけ、自らは何んか手を洗すことになったにすぎない。校止へ、校止へ。そしてそれは客観的には校力擁護といふまさに犯罪的な役割を果たしているのである。現在に至っては君達が行ったその内容を語ることもなく自治会再建を口にし、法学部臨時代長を選出せんとわのさたてているのである。

学友諸君、学校当局は本日、改革討議集会を中止した。自ら設定した改革討議集会を一方的に中止し、我々に学生総会へ参加せよと言つのみ。これとみても当局と民青諸君の意着は歴然としているではないか。

現在、我々は非常に困難な局面に到達している。かくも激烈に争われた全学闘争の一定の後退の中で佐藤訪米を十日後にひびきえ再度、我々の隊列を整えねばならない。学園においては東大日大斗争で提起された向巻をうけつて系統的斗争を展開せねばならない。

民青の民青による民青の為の政治主義的民主化策動粉碎!

ろーガン  
一、(特)導入常駐体制粉碎!

二、学長、協議会、団交貫徹!

三、七年安保粉碎、佐藤訪米阻止!